

2018年度しあわせ研究

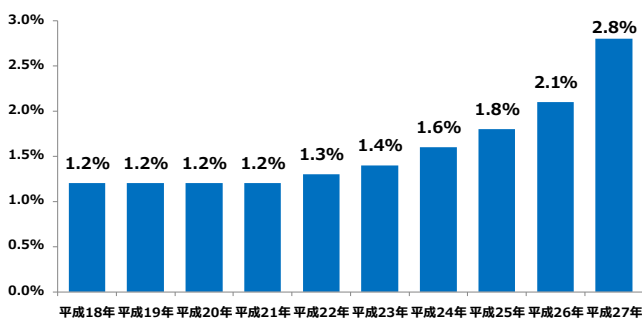
取締役会における女性の活躍が  
企業に与える影響

研究員 瀬古 美喜  
新倉 博明



本研究は企業の取締役会における性別の多様性が、企業業績に与える効果を実証的に分析するものである。企業で働く女性の割合を向上させる動きは、2014年6月安倍内閣が『「日本再興戦略」改定2014』において、「2020年に指導的地位に占める女性の割合30%」を目標としたことから注目されている。しかしながら、2015年度における上場企業の役員に占める女性の割合は2.8%程度であり、目標には程遠い。

上場企業の役員に占める女性の割合の推移



出典：内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成28年版」

本研究は2015年度における国内の上場企業(3,429社)を対象としており、上場している市場毎に効果を検証している。更に、本研究は女性の取締役割合だけでなく、女

性社外取締役割合と女性社内取締役割合それぞれが業績に与える影響も分けて分析している。こうした研究は諸外国で行われているものの、国内の上場企業を対象にしたものは例がない。

分析の結果、一部上場企業において女性取締役割合、女性社内取締役割合、女性社外取締役割合、それぞれがROE(自己資本利益率)を向上させる効果がみられた。一方、二部、マザーズ、ジャスダック上場企業においてはそうした傾向はみられなかった。

本研究の成果は武蔵野大学第3回Happiness Meeting(2018年8月8日)のポスターセッションで発表した。更に、The 17th International Conference of the Japan Economic Policy Association(2018年10月28日)において”The Effect of Inside and Outside Female Directors on Firm Performance: Comparison of The First Section, Second Section, Mothers, and JASDAQ in the Tokyo Stock Exchange Market”として論文にまとめたものを報告した。ここで得られたコメントを元に、査読付き国際専門誌に現在投稿中である。

今後はパネルデータの構築によってより精緻な分析に発展させ、女性役員の増加は企業や株主にとっての幸せにも繋がるというメカニズムを学術的に示したい。